

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和3年度10月号

#### ○ 概要

- (1) 令和3年10月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,461億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲1.8%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,456円（伸び率+0.1%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,695億円（伸び率▲0.3%）薬剤料が4,753億円（伸び率▲2.4%）、薬剤料のうち、後発医薬品が953億円（伸び率▲5.8%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,553円（伸び率▲0.9%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.74種類（伸び率▲0.7%）、27.7日（伸び率+1.7%）、73円（伸び率▲1.9%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,795億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲110億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の687億円（伸び幅+12億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+33億円（総額437億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,795 億円 (▲110 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(687 億円)	21 循環器官用薬 (631 億円)	11 中枢神経系用薬 (586 億円)
0歳以上 5歳未満	20.4 億円 (▲2.4 億円)	44 アレルギー用薬 (7.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.6 億円)	61 抗生物質製剤 (2.7 億円)
5歳以上 15歳未満	82.6 億円 (▲0.1 億円)	44 アレルギー用薬 (31.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (24.4 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(4.8 億円)
15歳以上 65歳未満	1,360 億円 (▲25 億円)	11 中枢神経系用薬 (283 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(261 億円)	21 循環器官用薬 (195 億円)
65歳以上 75歳未満	909 億円 (▲23 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(198 億円)	21 循環器官用薬 (172 億円)	42 腫瘍用薬 (140 億円)
75歳以上	1,422 億円 (▲59 億円)	21 循環器官用薬 (260 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(221 億円)	11 中枢神経系用薬 (184 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,456円（伸び率+0.1%）で、最も高かったのは高知県（11,808円（伸び率+2.8%））、最も低かったのは佐賀県（7,930円（伸び率▲0.6%））であった。  
また、伸び率が最も高かったのは高知県（伸び率+2.8%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲1.9%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	81.7 %	+0.4 %
薬剤料ベース	20.0 %	▲0.7 %
後発品調剤率	77.9 %	+0.8 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.0 %	+0.8 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲5.8 %	+3.5 % (50歳以上 55歳未満)	▲11.9 % (75歳以上 80歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.0 %	28.7 % (100歳以上)	12.2 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	81.7 %	86.4 % (100歳以上)	76.4 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	813 億円 (▲64 億円)	21 循環器官用薬 (241 億円)	11 中枢神経系用薬 (145 億円)	23 消化器官用薬 (101 億円)
0歳以上 5歳未満	7.3 億円 (▲0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (3.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	61 抗生物質製剤 (0.5 億円)
5歳以上 15歳未満	16.1 億円 (▲2.7 億円)	44 アレルギー用薬 (9.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.7 億円)
15歳以上 65歳未満	273 億円 (▲14 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (61 億円)	44 アレルギー用薬 (30 億円)
65歳以上 75歳未満	195 億円 (▲16 億円)	21 循環器官用薬 (73 億円)	11 中枢神経系用薬 (24 億円)	23 消化器官用薬 (23 億円)
75歳以上	322 億円 (▲30 億円)	21 循環器官用薬 (98 億円)	11 中枢神経系用薬 (59 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,394 円	1,794 円(北海道)	1,176 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.0%	▲0.9 % (宮崎県)	▲6.1 % (奈良県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	81.7 %	89.2 % (沖縄県)	78.1 % (東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.0 %	23.8 % (鹿児島県)	17.2 % (京都府)
後発医薬品調剤率	77.9 %	84.0 % (沖縄県)	73.1 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.0 %	66.8 % (沖縄県)	54.8 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年10月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。